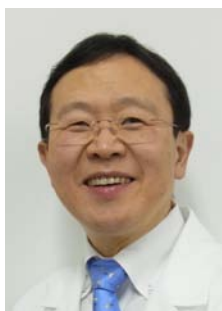


教室からのメッセージ



清水 宏教授

皮膚科学は、皮膚に病変がある疾患全てを「眼で見える」General Medical Science です。したがって皮膚科医には皮膚疾患の知識はもちろんのこと、内科的知識、外科的技術、病理診断能力が必須です。

北大皮膚科の臨床研修の基本理念は、ただだらと研修するのではなく、有意義な研修をするということを目指しています。短い時間に効率よく学ぶということが大切です。時間のゆとりを持ちつつ、高いレベルの臨床研修を行えるということが一番のセールスポイントです。高い臨床レベルの医師になりたい方、お子さんの出産を通じながらも、皮膚科の臨床を続けたいと思っている女医さん、また、北大皮膚科で臨床研究もして世界の皮膚科のリーダーになりたい方、多様な目標の持った方に最適な教室です。

当教室は短い時間で効率よく研修していただくために、研修システムも効果的に整っています。しかも、仕事のめりはりをしっかりとつけた仕事環境で、20年でも30年でも仕事を続けることができ、ゆとりをもった休暇システムも充分にとっています。

皆さん、ぜひ北大皮膚科で一緒に学び、楽しく働きましょう！

皮膚科教室は行事が盛りだくさんです！



バーベキュー



ビアガーデン



野球大会



ゴルフコンペ



三大学皮膚科懇親会



バスケット大会



送別会



教室歓送迎会



甲子会忘年会

目次

■いま、なぜ皮膚科なのでしょう	3
■北大皮膚科の特色	4
■北大皮膚科での研修コンセプト	5
■後期研修	6
■主な学外の皮膚科研修施設	7
■後期研修医の処遇について	8
■皮膚科スタッフの出身大学 皮膚科現教室員 51 名の出身大学 皮膚科年度別入室者の出身大学	9
■北大皮膚科から教授になった先生からのメッセージ	10
■北大皮膚科の特色	12
■日本皮膚科学会認定皮膚科専門医について	13
■大学院について 留学について	14
■資料 1. 2010 年度新人研修	15
資料 2. 研修医プログラム	16
資料 3. 病理ティーチング	17
資料 4. 英会話個人レッスン	17
■2010 年行事スケジュール	18
■女性医師の方へ	18
■北海道での研修を考えている方へ	18
■先輩からのメッセージ	19
■北大皮膚科へのアクセス	20

いま、なぜ皮膚科なのでしょう

■皮膚科人気は世界的

いま、ヨーロッパ、アメリカ、アジアの医学生に一番人気がある科は、実は皮膚科なのです。その理由は何なのでしょう。

- ① 専門性がはっきりとしている
- ② 診断学・内科的全身管理・外科・病理と幅広い分野に関わることが可能
- ③ QOL（Quality of Life）が高い

諸外国（特にアメリカ、イギリス、フランス、ドイツ、台湾）では毎年各科に所属できる医師の数が決まっているため、実力の無いものは希望する科を選択することができません。日本では入局者数に制限がないため目立たないのですが、関東の T 大学や K 大学では入局制限が徐々に始まりつつあります。

■皮膚科医が求められています

特に北海道は広域医療圏であり、まだまだ皮膚科医が不足しています。したがって、収入も安定しており、週一回の外勤で十分に生活が可能です。

■北大皮膚科はあなたの力を必要としています

美しい自然に囲まれた北海道大学では地域医療を担いつつ、世界的にも活躍できる環境を兼ね備えています。

特に皮膚科は高度な医療機器がたとえなくとも、自分の目と顕微鏡一つさえあれば診断が可能なのが魅力の一つです。どんなに医療後進地域に行っても貴方の力を十分に発揮できるのも皮膚科なのです。

北海道でも、世界でも活躍するのが、我々医師の使命ではないでしょうか。そんな希望をかなえるのが北大皮膚科の研修システムです。

北大皮膚科の特色

■ 誰でも一流になれます

北大皮膚科の研修システムの最大の特徴は誰でも一流になれることを意識した教育システムです。スタッフだけが指導するのではなく、自分の教わったことはすべて後輩に指導するよう、教室員全員で心がけています。世界レベルで活躍する先生からの直接指導だけでなく、数年先輩の先生がしっかりとついて、手取り足取り指導するシステムが構築されています。

清水教授が就任してからの12年間、30名以上の教室員が皮膚科専門医試験(合格率70%)を受けましたが、まだ北大皮膚科からの不合格者は一人もいません。

特に新人研修は充実しており、基本的な診断方法から、カルテの書き方、薬の処方仕方、各治療機器の使い方、写真の取り方まで細かく習得することが可能です。

論文作成に関しても同様であり、論文を書いたことがない人であっても、英語が苦手な人でも、誰でも一流雑誌に投稿しても恥ずかしくないような論文が書けるよう、添削システムを効率化し、ネイティブチェックも必ず行います。

さらに、英語発表に関しても、当科でネイティブスピーカーによる研修医のためのプライベート英会話レッスンを用意しており、たとえ自信がなかったとしても、自然と英会話能力を身につけることが可能になっています。

■ 幅広いニーズにも対応可能

皮膚科医といっても各々イメージする姿は異なります。地域で開業する者、日々手術をこなす者、病理組織を研究する者、大学病院で臨床研究を行う者など。

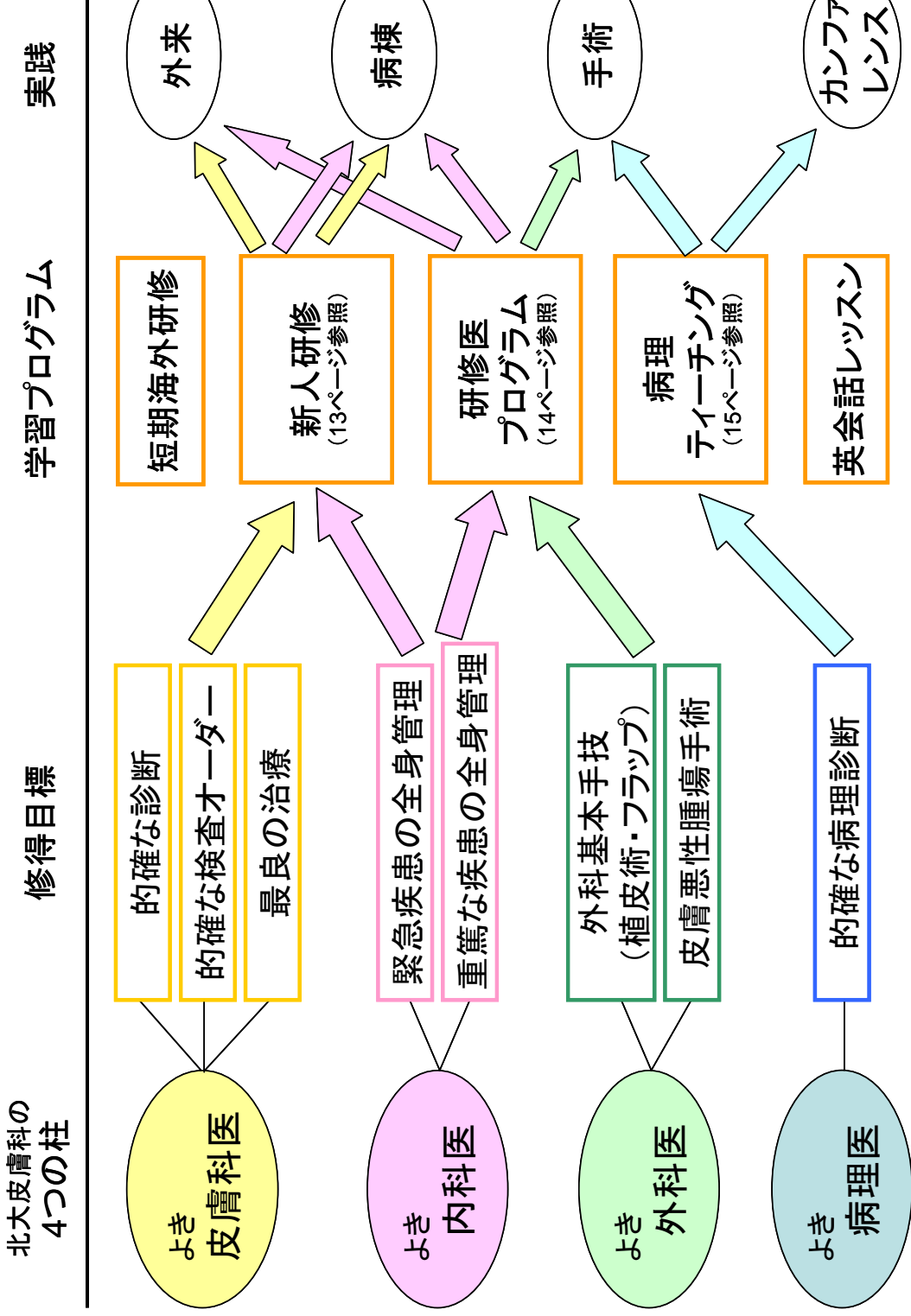
北大皮膚科はその幅広いニーズにこたえることが可能であり、卒後4年目以降はオーダーメイド研修システムを採用しており、各人の目指す皮膚科医の姿の実現のために必要な研修を各自が積むことが可能です。

■ 北大皮膚科の研修は厳しいのでしょうか

ここまでの話を聞くと北大皮膚科での研修は非常に厳しいのではないかと思うかもしれませんが、北大皮膚科は、やるときはしっかりやり、効率的に業務を行うことを目標にしています。「働くときはしっかりと働く、休むときはたっぷり休む」という考えが当科の基本方針です。北大皮膚科では医員は原則年6週間の休暇を100%消化することを推奨しており、多くの先生はその長期休暇を利用し、海外旅行に出かけたり、自分の趣味を楽しんだりリフレッシュを大に行っています。

このリフレッシュのための時間が、また休暇後の効率のよい業務へとつながっています。

北大皮膚科での研修コンセプト

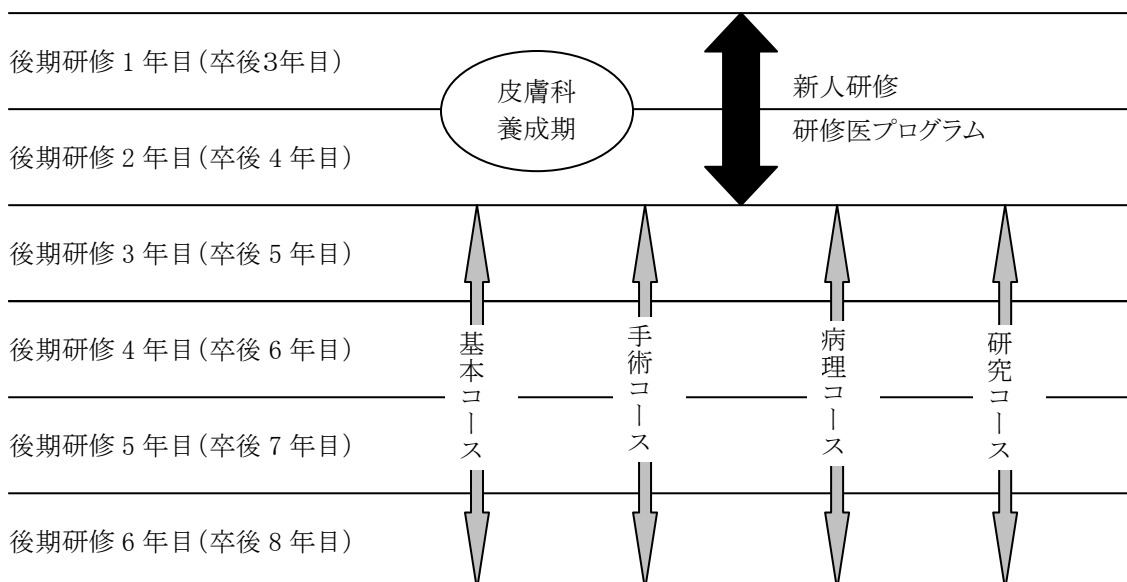


後期研修

当教室は皮膚科専門医資格を取得できるように必要な研修プログラムを十分に整備しております。日本のみならず、世界にも通用する高い臨床能力のある皮膚科専門医の育成を行っています。当然北大病院で初期研修を受けられた方も、北大病院以外で初期研修を受けられた方も、出身大学や国籍、性別に関係なく、分け隔てなく教育・指導を行います。できる皮膚科臨床医になりたいという皆さんの入局をお待ちしております。



皮膚科後期研修システム



オーダーメイド研修システム

後期研修 3 年目からは、希望により基本コース以外に、手術や病理の専門性を高めるために手術や病理に特化したアドバンスコースを選ぶことも出来る。

基本的にそれぞれの研修医の希望に可能な限り沿うように研修カリキュラムを組む。

主な学外の皮膚科研修施設

当教室における臨床研修では、大学病院はもちろんのこと各関連施設において、臨床の第一線で活躍する専門医の指導のもと、充実した幅広い臨床研修を送ることができます。

北海道大学皮膚科の臨床研修関連施設は以下の通りです。

主な9箇所の研修施設

病院名	皮膚科 常勤医数	病床数 (全体)	コメント
市立札幌病院	4名	810床	札幌市の基幹病院であり、ほぼすべての診療科がある。皮膚科においても常勤4名であり、そのうち3名が皮膚科専門医である。
JR 札幌病院	4名	312床	地域連携が充実し、多くの入院を要する患者が紹介されてくる。皮膚科においても入院患者数が非常に多い。
KKR 札幌医療センター	2名	450床	
斗南病院	2名	243床	
札幌社会保険総合病院	2名	276床	
帯広厚生病院	2名	748床	
市立釧路総合病院	2名	655床	
市立千歳市民病院	2名	190床	

その他の研修病院

苫小牧市立病院、岩見沢市立総合病院、江別市立病院、市立小樽病院、滝川市立病院、北海道中央労災病院せき損センター、八雲総合病院、浦河赤十字病院、静仁会静内病院、函館共愛会病院、製鉄記念室蘭病院、三愛病院

後期研修医（大学勤務）の処遇について

◆給与

☆後期研修医(1年目)

大学からの給料 約 20 万円 外勤 5～10 万円/回、月 2 回程度
(希望により他病院の当直などもあり)

計 約 40～50 万円程度(税込み)

☆後期研修医(2年目以降)

大学からの給料 約 20 万円 外勤 5～10 万円以上/回、月 4～5 回
(希望により他病院の当直などもあり)

計 約 70 万円以上(税込み)

◆休暇

☆後期研修医(1年目)

年間 13 日間

☆後期研修医(2年目以降)

年間 6 週間

◆客員臨床医師制度

この制度は、専門医資格を取得した者が対象となります。しかし、出産や病気で常勤として勤務が困難な場合も、この制度を利用して教室員として仕事を続けることが可能です。例えば、週に 2～5 日間の勤務コースがあり、それぞれ十分な収入を得ることができます。休暇は 2 週間です。

皮膚科スタッフの出身大学

教員名	役職	出身大学名
清水 宏	教授	慶應義塾大学
阿部理一郎	准教授	北海道大学
青柳 哲	講師	獨協医科大学
西江 渉	講師	弘前大学
有田 賢	助教	北海道大学
氏家英之	助教	北海道大学
乃村俊史	助教	北海道大学
藤田靖幸	助教	北海道大学
新熊 悟	助教	奈良県立医科大

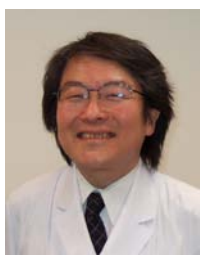
皮膚科現教室員 50名の出身大学

出身大学名	人数
北海道大学	23
旭川医科大学	6
慶應義塾大学	2
岩手医科大学	2
札幌医科大学	2
東京女子医科大学	2
川崎医科大学	2
弘前大学	1
滋賀医科大学	1
富山大学	1
防衛医科大学校	1
群馬大学	2
奈良県立医科大学	1
獨協医科大学	1
昭和大学	2
大阪医科大学	1
合計	50

皮膚科年度別入室者出身大学

年度	入室者出身大学内訳
平成 23 年 計 4 名	北海道大学 2名 群馬大 1名 昭和大 1名
平成 22 年 計 2 名	北海道大学 1名 岩手医科大 1名
平成 21 年 計 4 名	北海道大学 1名 旭川医科大学 1名 大阪医科大学 1名 高雄医科大学 1名
平成 20 年 計 2 名	旭川医科大学 1名 群馬大学 1名
平成 19 年 計 4 名	北海道大学 1名 防衛医科大学校 1名 琉球大学 1名 東京女子医科大学 1名
平成 18 年 計 5 名	旭川医科大学 1名 富山大学 1名 奈良県立医科大学 1名 川崎医科大学 1名 岩手医科大学 1名
平成 17 年 計 3 名	北海道大学 1名 滋賀医科大学 2名

北大皮膚科から教授になった先生からのメッセージ



秋山 真志先生（名古屋医学部皮膚科教授）

2010年10月教授就任

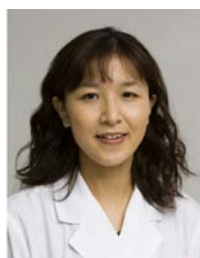
私は清水教授の北大着任の約2年後、2001年に北大皮膚科に講師として赴任、10年弱の間、臨床・教育と並行して、遺伝性皮膚疾患やアトピー性皮膚炎等の臨床に即した研究を行いました。そして、2010年に北大准教授から、名古屋大学皮膚科教授に就任いたしました。清水教授と北大皮膚科は研修医の教育に多大な情熱を傾けています。北大皮膚科での後期研修をやり遂げれば、間違いなく一流の皮膚科医になれると信じています。



澤村大輔先生（弘前大学医学部皮膚科教授）

2007年2月教授就任

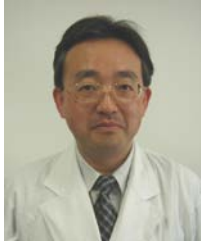
私は1982年、弘前大学皮膚科に入室し、一度、函館市立病院部長として地域医療に携わりましたが、清水 宏教授にお誘いいただき2000年から北大皮膚科に講師として加わりました。その後、助教授として臨床・教育・研究の運営に携わらせていただきました。その間、清水 宏教授の魅力に引き寄せられ、若くモチベーションの高い医師が多く集まり、非常に活気のある教室となりました。私もそんな教室員の力を借りて2007年弘前大学の教授に就任することが出来たと思っています。前大学の教授に就任することが出来たと思っています。



西村栄美先生（東京医科歯科大学難治疾患研究所幹細胞医学分野教授）

2009年3月教授就任

私は、京大皮膚科および関連病院で皮膚科研修をしたのち京都大学で色素細胞の発生を研究し学位を取得し、次いで“色素幹細胞”に出会ったのを転機に新しい観点から再生研究、白髪、老化研究をアメリカ合衆国ハーバード大学で行って参りました。その後、清水宏教授に呼んでいただき、特任助教授として北大皮膚科に入室しました。北大皮膚科は出身大学にとらわれず、熱意のある者に広く門を開いています。臨床はもちろん、研究に興味のある方にも今後のステップアップに最適な研修場所だと思います。清水宏教授をはじめ、スタッフの先生方も素晴らしい先生ばかりで、今も心より感謝しています。



清水忠道先生（富山大学医学部皮膚科教授）

2005年10月教授就任

私は1986年、北海道大学医学部を卒業し、北大皮膚科に入室しました。1999年に清水宏教授が着任後、講師として教室内の研究室リーダーとなり、臨床に基づいた炎症性サイトカインの研究を行いました。その後、さらに業績を加えて、2005年に富山大学医学部皮膚科教授に就任しました。清水宏教授は、教室の若い医師、特に研修医に対して多大な情熱を傾けて、世界に通用する皮膚科医を育て上げることを一番重要視しています。北大皮膚科での研修システムに沿って研修を行えば、必ずや一流の皮膚科医になれることは保障できます。



Dr. James McMillan

(Associate Professor, University of Queensland)

2008年3月教授就任

March 31st, 2008, marks the end of my duties as a specially appointed professor at and Department of Dermatology, Hokkaido University. I would very much like to share my feelings after working in Sapporo with you, as an English man. How long have I been working in Japan? Unbelievably, it will be over eight years. I vividly remember the day I joined the Department of Dermatology after a cold, snowy drive from New Chitose Airport in February 2000. Since then, my life in Sapporo has really changed and has given me many precious memories. I thank all the members of the department for making my 8 years experience in Japan such a memorable one. Our goal is to develop cell and porous membrane therapies for use in skin grafting in the treatment of chronic non-healing wounds. We hope to be able to use cultured human keratinocytes and dermal fibroblast grafts to treat patients' wounds. These therapies are needed to treat chronic non-healing wounds especially in certain patients with hereditary blistering diseases and those associated with poor skin wound healing.

北大皮膚科の特色

詳細を知りたい方は、北大皮膚科ホームページから「入局案内」をご覧ください。

<http://www.derm-hokudai.jp>

○幅広いニーズに対応し、非常に効率的な皮膚科臨床研修システムを確立しているため、入局者は、有能な臨床医から世界に羽ばたける皮膚科リーダーまで、誰でも一流の皮膚科医になれます。実際に清水教授就任以来(1999年)、教室員は皮膚科専門医試験に全員合格しています。(北大皮膚科ホームページから「卒後臨床研修について」をクリックし、「皮膚科専門医について」をご覧ください。 <http://www.derm-hokudai.jp>)

○毎週の皮膚科研修医クルズス、英会話個人レッスン、皮膚外科ティーチング、皮膚病理ティーチングなどの効率的な教育システムによりトレーニングを受けます。英語が苦手な人でも、入局1年目で自然に英語の症例報告論文が書けるよう臨床力が身につきます。

○明るく楽しく、かつサイエンティフィックな雰囲気の中で、充実した毎日が過ごせます。

○性別、国籍、年齢、出身校にかかわらず、誰にとっても働きやすい職場です。出産のために仕事を辞めた方はいません。出生率日本一の教室を目指しています。(北大皮膚科ホームページから「入局案内」をクリックし、「女性医師の方へ」をご覧ください。 <http://www.derm-hokudai.jp>)

○仕事と休暇のメリハリをはっきりさせています。仕事には全力で取り組み、休暇は教室員全員がフレキシブルにしっかりとるシステムを導入しています。

○研修医をはじめ、若手医師の雑務を最小限にしているため、医者としての勉強、仕事に集中できます。7名の秘書、9名の実験助手が研修医の日常診療、大学院へ進学した際の研究をサポートしてくれます。

○当科では若いうちから、国際的に活躍する皮膚科医を養成するために、海外での短期海外研修、海外の学会参加などを積極的に推奨しています。

日本皮膚科学会認定皮膚科専門医について

北大皮膚科においては当教室に入局された先生、全員が皮膚科専門医を習得することにしております。

習得時期に関しましては、皮膚科専門医申請の資格は5年間以上日本皮膚科学会に加入していることが必須となっておりますので、初期研修2年間で修了して日本皮膚科学会に加入された場合は最短で医師8年目での申請となります。しかしながら、早く皮膚科専門医を習得したいという希望のある方は初期研修中に日本皮膚科学会に加入することもできますので、最短で6年目に申請が可能です。

日本皮膚科学会の入会に関しましては、ご相談ください。

■申請の資格

我が国の医師免許を持っていること。5年間以上引き続いて正会員であることを要します。何かの事情で会員資格が途切れた時は、再び5年間の継続を必要としますので、ご注意ください。更に、現在、実際に皮膚科の診療に従事している方に限ります。

■研修について

日本皮膚科学会の正会員として、皮膚科専門医研修を5年間行うことが必要です。この研修に関しては、日本皮膚科学会の指定を受けた研修施設において、指導医が作成した研修カリキュラムに従って、指導医の許で5年以上の研修を行うことが必要です。もちろん5年を超えることは差支えなく、研修終了まで10年でも結構です。日本皮膚科学会正会員として行った初期研修の期間は、皮膚科専門医研修期間に算定されます。したがって、たとえば、日本皮膚科学会に入会し正会員として、初期研修2年間で終了した場合、必要な皮膚科専門医研修期間は3年あるいはそれ以上となります。

■単位取得の義務

専門医を志す方は、認定前研修実績(前実績と略します)として講習受講、学会発表、原著発表について定められた総単位数、計150単位を取得してください。学会発表は、自分で口演発表したものに限りません。これらの満たすべき単位数は次の通りです。

■単位数

講習会	必須	各10単位	30単位以上を義務とします
	選択	各10単位	講習会の単位は計80単位を超えられません
学会発表	各1回	5単位	
原著発表	各1編	10単位	原著は3編(30単位)以上を義務とします

総計150単位以上を必要とします。

■専門医認定試験

研修目標に到達したかどうかを知るために、認定試験が年に1回行われます。試験は原則として実地医師に必要な問題を主とし、真面目に研修を行った者には容易な程度とし、いたずらに難解な問題は避けるように申し合わせております。出題範囲は、研修内容に準拠します。

大学院について

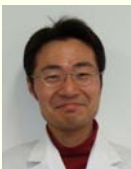


北大皮膚科大学院の本質的な教育方針は、臨床の現場へダイレクトに還元可能な研究を行うことです。皮膚科医に臨床研究者としての社会的使命にも目覚めてもらうことを目標とします。従って、研究内容も臨床に直接役立つ臨床研究、あるいは時間がかかっても将来臨床に還元できるような研究が中心となります。また、同時に皮膚科学にとどまらずに、医学全体に発信できる研究を目指します。

北大皮膚科は4つの研究グループがあります。研究を行うに当たっては、北大皮膚科の指導教官の指導のもと、研究のアイデア・構想、実際の実験、結果の解析、結果の解釈、英文論文作成、論文投稿など基礎研究の基本から実践にいたることを修得します。テーマは、これらのステップを確実に学べるものであり、かつ、臨床に直結するテーマとします。

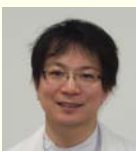
留学について

教室員の海外交流は教室の活力と考え、国内外への留学は活発に行われており、若いうちから海外に派遣する姿勢がとられています。留学時期はフレキシブルで大学院在学中に留学する人もいます。主な留学先もフレキシブルで、米国、英国、ドイツ、オーストリアなど多様で、全員、有給で留学しています。当教室では基礎研究に限らず、臨床留学や病理学も積極的に行っております。



☆柳 輝希 先生(米国 Sanford-Burnham Medical Research Institute 留学)

2010年12月より米国カリフォルニア州サンディエゴ、La Jolla (ラホヤ) の Sanford-Burnham Medical Research Institute に留学しています。La Jolla は San Diego から北に15分程度来たところで、Los Angeles からも2時間です。大学院での研究テーマであった角化症から少し離れ、REED 教授のもと癌とアポトーシスの研究をしています。REED 研究室には、世界中から多くの研究者が集まっています。こちら San Diego は、南カリフォルニアに位置し、晴れの日が多い温暖な気候に恵まれ、とても生活しやすいところです。日本食も豊富にあり、食事にも困りません。。。。というように、皮膚科ではさまざまな留学のチャンスがあります。卒業早い時期に留学の機会を得られるので、留学したいという方は是非北大皮膚科をご検討ください。



☆夏賀 健先生(英国 Cancer Research UK, Cambridge Research Institute 留学)

2010年3月に大学院を卒業し、同年9月から Cancer Research UK, Cambridge Research Institute の Fiona Watt ラボに留学しています。ケンブリッジは、ロンドンから電車で一時間ほどの距離に位置しており、比較的閑静な学園都市です。家族ともども日本とは違った環境をエンジョイしています。こちらのラボは、皮膚の研究をメインに行っていますが、メンバーのほとんどを基礎研究者が占めているので、私もこれまでとは違った視点で物事を捉える機会を得ています。私はこちらのラボで、皮膚バリア機能についてマウスモデルを使った実験を始めました。皮膚は、外界を浮遊している化学物質や細菌などの抗原に対する最前線の防御機構の役割を担っていますが、このバリア機能が侵されるとアトピー性皮膚炎や魚鱗癬などの疾患を巻き起こします。私が現在取り組んでいる研究によって、バリア機能障害を持つ患者さんに対する特異的な治療法の開発につながればと願っております。

資料1 2011年度 新人研修

	指導医	タイトル	内容
1	清水 宏 教授	医師としての心構え、 研修医の目標、おおまかな流れ	皮膚科医として、医師として、社会人、国際人としての心構え、 2年間の研修医期間での目標、研修プログラムの概要および目標達成のために新人が努力、注意すべき点について
2	西江 涉 講師	北大皮膚科での研修に当たって	教室での仕事、勉強をしていく上での教室での約束事全般(教室係り、 休暇、E-mail、出張、ローテーション、学位、学会など)そのほか、秘書、 実験助手、MRとの対応についてなど
3	西江 涉 講師	教室の約束事、甲子会について	同門会の組織、関連行事について
4	青柳 哲 講師	超音波検査について	超音波検査の適応、実際の手技について
5	青柳 哲 講師	皮膚生検	主に外来での皮膚生検の基本手技および清潔操作と検体の取り扱い、 および病理伝票の作成について
6	青柳 哲 講師	術場での指導	術場に入った際にやること、気をつけるべきこと、手洗い、手術伝票の記載、 モニターの確認などについて
7	藤田 靖幸 助教	コンピューターの使い方	文献検索、画像の取り込みを含めたコンピューターの操作の基本について
8	藤田 靖幸 助教	ダーモスコピー	ダーモスコピーの適応、実際の手技、写真撮影について
9	氏家 英之 助教	抗ヒスタミン薬、抗生物質、 抗ウイルス薬の使い方	抗ヒスタミン剤、抗生物質、抗真菌剤(内服)、抗ウイルス剤の概略、適応疾患、 副作用について
10	氏家 英之 助教	ステロイド、免疫抑制剤、 エトレチナートの使い方	その他の皮膚科領域で用いられる上記薬剤の適応、副作用について
11	阿部理一郎 准教授	検体の提出	北大皮膚科での採血検体(血清およびDNA用採血)の取り扱い、および 検体提出についての約束事と注意すべき点
12	阿部理一郎 准教授	論文の書き方	最初の論文執筆を想定して、図の作成、原稿の作成、論文の書き方、論文の 発送および、教室での業績としての保管について
13	阿部理一郎 准教授	学会発表の方法	初めての学会発表を想定してのスライドの作成、原稿の作成、練習会までの 準備、および抄録スライドの教室での保管について
14	乃村 俊史 助教	病歴の取り方、カルテの 書き方(リスクマネージ)	外来患者、入院患者の病歴を取る時の注意点、カルテの記載をする上での 注意点、手紙の書き方の基本
15	乃村 俊史 助教	専門医制度について	日本皮膚科学会専門医システム、専門医の取得方法および意義について
16	新熊 悟 助教	パッチテスト	パッチテストの適応、および種類、実際の手技の実習
17	新熊 悟 助教	紫外線療法、MED の測定、 真菌検査	紫外線療法の適応、MED、photo patch test の適応、実際の紫外線照射 装置を用いた実習、検体採取の仕方、直接鏡検、培養法について
18	有田 賢 助教	外用剤の使い方	ステロイド剤、抗潰瘍剤、抗真菌剤、その他の外用剤の概略および適応疾患、 副作用について
19	有田 賢 助教	保険診療について	保険診療の仕組み、実際の診療の上で注意すべき点についての概略

資料2 研修医プログラム

主に研修医を主体とする若手教室員を対象に、非常勤講師、関連病院の先生、教室のスタッフや医員が木曜の早朝に皮膚科学の総論や各論の講義を行う、皮膚科研修プログラムを行っております。研修医は勿論のこと、医局員、さらには医学部学生も出席しています。今年もさらにレベルの高い研修医プログラムを行いたいと考えています。講義は完全オープンとし、医局の先生、医学部の学生はもちろんのこと、他学部の学生などにもアナウンスしています。北大皮膚科から日本の、世界の皮膚科学の発展に貢献できるような優秀な皮膚科医が育ち、教室全体のレベルがより向上するように、本プログラムを継続していきたいと考えています。プログラム内容は変更する可能性があります。

2011年度皮膚科研修医プログラム予定表

場所:皮膚科図書室(南研究棟3階) 時間:PM 5:30~ PM 6:30

	その日のテーマ	講師	日時	
1	皮膚科医の役割	阿部理一郎	北大准教授	2011/4/7
2	皮膚科の主な検査	有田 賢	北大助教	2011/4/14
3	皮膚の構造と機能	新熊 悟	北大助教	2011/4/21
4	ダーモスコピー	猪熊大輔	市立札幌病院 副医長	2011/4/28
5	皮膚科の主な治療	伊藤 圭	JR札幌病院 主任医長	2011/5/12
6	皮膚科の手術	青柳 哲	北大講師	2011/5/19
7	皮膚の免疫組織と超微構造	中村秀樹	北大助手	2011/5/26
8	皮膚病理検査と皮膚病理診断学	小玉和郎	昭和皮膚科クリニック 院長	2011/6/2
9	湿疹・接触性皮膚炎	氏家英之	北大助教	2011/6/9
10	皮膚細菌感染症	長谷部育恵	北大客員臨床医師	2011/6/16
11	悪性黒色腫	青柳 哲	北大講師	2011/6/23
12	蕁麻疹、皮膚掻痒症	乃村俊史	北大助教	2011/6/30
13	真菌症	芝木秀臣	芝木皮ふ科医院 院長	2011/7/7
14	デルマトローム	大田光仁	市立千歳市民病院 医長	2011/7/14
15	皮膚好酸菌感染症	藤田靖幸	北大助教	2011/7/21
16	上皮性良性腫瘍	秦洋郎	北大医員	2011/7/28
17	レーザー治療	伊藤 圭	JR札幌病院 主任医長	2011/9/1
18	膠原病,SLE, SSC,DMなど	松村和子	札幌社会保険総合病院 部長	2011/9/8
19	皮膚悪性腫瘍	秦洋郎	北大医員	2011/9/15
20	非上皮系腫瘍・肉腫	本間英里奈	北大医員	2011/9/29
21	薬疹	齋藤奈央	北大大学院生	2011/10/6
22	皮膚科における機器を使った治療	根本 治	札幌皮膚科クリニック 院長	2011/10/13
23	乾癬	西村真智子	北大大学院生	2011/10/20
24	HIV感染者に見られる皮膚病変	清水聡子	市立札幌病院 医長	2011/10/27
25	色素異常症	守内玲寧	北大医員	2011/11/10
26	自己免疫性水疱症	芝木晃彦	芝木皮ふ科医院 副院長	2011/11/17
27	リンパ腫	保科大地	北大医員	2011/11/24
28	血管炎、紫斑症	浜坂明日香	斗南病院 医長	2011/12/1
29	表皮水疱症	清水 宏	北大教授	2011/12/8
30	褥瘡	月永一郎	KKR札幌医療センター医長	2011/12/15
31	アトピー性皮膚炎	安藤佐土美	札幌社会保険総合病院 医員	2012/1/19
32	脂肪織の疾患	伊藤 幹	KKR札幌医療センター 医長	2012/1/26
33	遺伝性角化症	大口由香	北大大学院生	2012/2/2
34	毛髪疾患	飯谷麻里	JR札幌病院 医長	2012/2/9
35	小児の皮膚疾患	谷村心太郎	市立千歳市民病院 医長	2012/2/16
36	爪の疾患	渡邊英里香	JR札幌病院 医長	2012/2/23
37	ウイルス性疾患	安川香菜	斗南病院 科長	2012/3/1
38	肉芽腫症	西江 渉	北大講師	2012/3/8
39	代謝異常症	野村友希子	北大医員	2012/3/15

資料3 病理ティーチング

最近の皮膚病理を取り巻く動きとしましては、皮膚科医が皮膚病理診断書の公式サインアウトをできるようになるかもしれないと云うことで非常に期待しておりますが、それはともかく皮膚科の臨床医にとって自らのレベルの向上を図るのに皮膚病理の習熟は欠かせない項目です。



北大皮膚科では例年通り研修医対象の病理ティーチングを1年間通じて行いました。毎週月曜日夜に行っており、事前に並べた病理プレパラートを毎週研修医たちが病理所見をとってティーチングの時間にプレゼンし、正しい所見の取り方、診断へのプロセスを身につけてもらおうとしています。正常皮膚から始まり、炎症性疾患、腫瘍性疾患と順番にやっています。そして最終週に試験を実施し、各自が現時点の診断能力を知り、更なる研鑽を目指してもらっています。

今年度も2人の新人がカリキュラムを終了しましたが、以前4~5年目の有志ドクター達が参加してくれていたことが懐かしいです。

毎週月曜日 夕方6時半～ 藤田靖幸 助教

毎週水曜日 夕方5時～ 清水 宏 教授

	学 習 項 目		学 習 項 目		学 習 項 目
1	正常組織	8	色素異常	15	表皮と毛包由来の腫瘍
2	interface dermatitis	9	コラーゲン線維と弾性線維の異常	16	付属器腫瘍
3	表皮の炎症性疾患	10	cyst とその類症	17	線維系腫瘍
4	水疱をきたす疾患	11	沈着症	18	脂肪・筋・神経系腫瘍
5	肉芽腫	12	皮膚附属器疾患	19	血管系腫瘍
6	血管炎	13	panniculitis	20	色素性病変
7	角化異常	14	infectious disease	21	リンパ腫

資料4 英会話個人レッスン

週に1回ほどの、マンツーマンでの1時間の英会話個人レッスンを研修医から医員、大学院生まで若手医師向けに行っています。先生はみな native speaker で、生の英語の習得に最高の授業です。

英語に自信がなくても、自然と英会話能力を身につけることが可能になっています。



2010年行事スケジュール

月	行事	月	行事
4月	教室歓送迎会	10月	三大学皮膚科懇親会
5月	ボウリング大会	11月	サッカー大会
6月	野球大会	12月	甲子会忘年会
7月	バーベキューパーティー ゴルフコンペ	1月	新年会
8月	ビアガーデンパーティー	2月	開講記念日祝賀会
9月	ボウリング大会	3月	バスケットボール大会

女性医師の方へ

当教室では女性医師に入局を積極的に勧めています。当教室における、女性医師の扱いについては、原則として男性との差別はありません。男性と同じ仕事を同じようにして頂きます。「原則として」と申し上げたのは、状況によっては女性として考慮しなればいけない場合があるからです。特に、結婚して子供が生まれた場合、ご両親の助けをかりなくても、皮膚科医としての仕事を続けていくことが出来るよう教室全体でサポートします。個々に相談して出来るだけご本人が仕事を続けられるように努力したいと思います。

北海道での研修を考えている方へ

最近では他大学出身の医師が北海道での診療・研究を希望し、北海道大学皮膚科の仲間入りをするというケースが増えています。この傾向は今後さらに強まると思われませんが、本教室ではそのような他大学や他施設出身の医師を全く垣根なく受け入れさせていただいています。むしろ様々な経験を持つ医師と共に働けることは、私達自身が成長する極めて貴重なチャンスです。臨床、研究を問わず、すでに医師・研究者としてのキャリアをお持ちで、かつ北海道での診療、研究に興味のある方は是非一度ご連絡頂ければ幸いです。私達に限らず北海道の医療に携わる全ての人々、そして北海道民はあなたの次の一步を心待ちにしています！

先輩からのメッセージ



平田 悠先生

皆様初めまして。北大皮膚科後期研修医の平田悠と申します。僕は岩手医科大学を卒業後、岩手県で初期臨床研修を行い、医師 3 年目で北大皮膚科の後期研修医として現在奮闘中です。僕は初期研修の際にほとんど皮膚科には触れていなかったためほとんど知識がなく、また他大学出身、初期研修も他県のため全く知っている人がいない中で、期待よりも不安がかなり大きかったのを覚えています。そんな僕にいろんな先生方が声を掛けて下さったり、気にかけてくれ、優しい先生ばかりだなと日々思っていました。実際の業務でも熱心で、患者さんにも優しい先生ばかりです。また研修医プログラム、病理勉強会、症例検討会、病棟、手術や外来などで皮膚科の専門的な知識や手技を熱心に指導してもらえ、立派な皮膚科医になるための対策もばっちりです。本当か嘘か、まずは見学に来て頂ければと思います。北大皮膚科には皆さんの若いパワーが必要です。では会える日を楽しみにしています。



豊永愛恋 先生

皆さんこんにちは。後期研修 2 年目の豊永愛恋です。私は初めて清水教授の授業を受けた時からその溢れ出るバイタリティーに惹かれ、世界を目指す北大皮膚科という教室にとっても魅力を感じていました。学生実習では皮膚科の先生方は皆とても優しく指導してくださり楽しく勉強することができました。学生実習がとても楽しかったという思いが強く、初期研修 2 年目には北海道大学皮膚科で 8 カ月研修させていただきました。後期研修を行う科を選択しなければいけない時他にもいくつか候補だった科もあり、本当に色々悩みましたが、様々な領域に跨る皮膚科を選択し現在にいたります。皮膚科は「楽な科」というようなイメージがあるかもしれませんが、そのイメージは必ずしも当たってはいないと私は思います。皮膚科は皮膚だけを診ればよいというわけではなく、内科領域、外科領域、そして病理に精通して初めて皮膚を診ることができるようになります。様々な要素を考えながら診療する皮膚科という科はいい意味でやりがいがある科だと思います。北大皮膚科はその様々な分野をバランス良く、全ての面において熱心にご指導していただいたので、とても充実した研修生活を送れています。そして私を感じる北大皮膚科の最大の魅力は世界を目指した具体的な対策がなされているところです。ネイティブの先生による月 2 回程度のマンツーマン英会話を受けることができたり、若いうちから海外の学会に積極的に参加したり、海外の有名な先生をカンファレンスに招き特別講演を依頼したりといったことを行っています。教室員の国籍も多彩で様々な国から様々な人たちが北大皮膚科に集まっています。医局員の出身大学も多彩であり、このような教室だからか、どのような人でもすぐ溶け込めるような温かい雰囲気があります。北大皮膚科に少しでも興味のある方は一度この雰囲気を肌で感じてください。いつでも待っています。

皆さんぜひ北大皮膚科へ！

北大皮膚科へのアクセス

北13条門から入り銀杏並木を通り、T字路を右折し、噴水の裏にある管理棟へ行くと、受付がごさいますのでお問合わせください。



相談はいつでも受け付けます

遠慮なく、医局長：西江 渉 nishie@med.hokudai.ac.jp

または教室員や秘書など誰でも構いませんので連絡してください

また詳細を知りたい方は、下記ホームページもご参照ください

Staff address

教授	清水 宏	shimizu@med.hokudai.ac.jp
准教授	阿部 理一郎	aberi@med.hokudai.ac.jp
講師	青柳 哲	saoyagi@med.hokudai.ac.jp
講師(医局長)	西江 渉	nishie@med.hokudai.ac.jp
助教	有田 賢	ariken@med.hokudai.ac.jp
助教	氏家 英之	h-ujie@med.hokudai.ac.jp
助教	乃村 俊史	nomura@huhp.hokudai.ac.jp
助教	藤田 靖幸	yfujita@med.hokudai.ac.jp
助教	新熊 悟	qxfjc346@ybb.ne.jp

北海道大学大学院医学研究科皮膚科学分野
後期研修プログラム 2011

2011年4月7日印刷

発行 北海道大学大学院医学研究科皮膚科学分野
〒060-8638 札幌市北区北15条西7丁目
TEL(011)706-7387 FAX(011)706-7820